

令和五年 七宝会

きつじつこうえん

橘実公演



雪の能

しもとゆふ
葛城山に降る雪は
間なく時なく
おもほゆるかな



最も古典にして
最もアヴァンギャルドな能
能楽をみなさまに

七宝会

◆十二月二日(土)

昼の部 十五時開演

夜の部 十八時開演

◆枚方市総合文化芸術センター 本館

関西医大 小ホール

●昼の部

狂言「焼栗」

野村 萬齋

狂言

「膏薬煉」

野村 萬齋

能「葛城」

辰巳満次郎

能

「鉢木」

辰巳満次郎

大和舞

令和五年

七宝会 橘実公演

雪の能



七宝会

【解説】

【番組】

○昼の部 十五時開演

狂言「栗焼」

太郎冠者 野村 萬斎 主 野村太一郎

後見 飯田 豪

能「葛城」

大和舞

里女・葛城の神 辰巳満次郎 大鼓 辻 芳昭
羽黒山の山伏 江崎欽次郎 小鼓 久田舜一郎

同行山伏 松本 義昭 太鼓 上田 悟
所の者 野村 裕基 笛 貞光 訓義

狂言「膏葉煉」

●夜の部 十八時開演

上方の膏葉師 野村 萬斎 鎌倉の膏葉師 野村太一郎

能「鉢木」

佐野源左門 辰巳満次郎 二階堂の 野村 裕基
常世の妻 辰巳 孝弥 早打 飯田 豪
旅僧・北条時頼 福王 知登

ワキツレ 江崎欽次郎 大鼓 守家 由訓
ワキツレ 広谷 和夫 小鼓 上田 敦史
ワキツレ 中村 宜成 笛 貞光 卓生

日時 令和五年十二月二日(土) 昼の部 十五時開演 夜の部 十八時開演

会場 枚方市総合文化芸術センター本館 関西西医大 小ホール

料金 <昼の部、夜の部それぞれ> 指定席 4,000円 自由席 3,000円

<昼夜通し> 指定席 6,000円 自由席 4,000円

●割引になるほか、昼夜通しのお客様と会員様には昼夜間の時間に「能楽師とともに様々な体験」をしていただけることとなります。(事前申込制先着順)

◆スマホ解説

「衆我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマホをお使いいただき、ご自身のイヤホンで解説をお聴きいただけるサービス提供が開始されました。ご希望の方はスマホとイヤホンをご持参のうえ、ご体験くださいませ。

◇狂言「栗焼」 くりやき
主人から、貰い物の栗を焼き栗にするよう命じられた召使いは、早速囲炉裏端で焼き始めるが、その香ばしい匂いに誘われて「つ二つとつまみ喰い」。栗の弾ける様子など、焼けていく過程を所作や擬音で巧みに表現し、召使いが奮闘する独演が見どころとなっています。

◇能「葛城」 大和舞 かづらきやまどまい
ある冬のこと。山伏の一行が、大和国葛城山(今の奈良県)へ入りました。一行は山中で吹雪に見舞われ、木陰に避難します。彼らを気の毒に思った女は一行を自分の庵に案内します。女は、「しもと」と呼ぶ薪を焚いて山伏をもてなし、葛城山と「しもと」にまつわる話を語ります。夜も更け、山伏は夜の勤行を始めることにします。すると女は、自分の苦しみを取り去るお祈りをしてほしいと、言い出しました。女は、自分は葛城の神であり、昔、修験道の開祖、役の行者の依頼を受けて、修行者のための岩橋を架けようとしたが、架けられなかった。そのための、役の行者の法力により葛城で縛られ、苦しんでいると明かし、消え去ります。山伏が、葛城の神を慰めようとして祈っていると、女体の葛城の神が、葛城に縛られた姿を見せ、山伏たちに祈禱するよう頼み、大和舞を舞うと、夜明けの光で醜い顔があらわになる前にと、磐戸のなかへ入っていきました。

◇狂言「膏葉煉」 こうやくねり
膏葉(皮膚疾患や湿布などに用いる貼葉)名人と自負する鎌倉と都の膏葉煉。とは云え、互いの噂も耳にしていて心中穏やかではありません。そこで相手の膏葉の出来を比べようと旅立ち、出典の系図や調合する薬種を披露するなど、自慢話が発展して…

◇能「鉢木」 はちのき
大雪が降る中、鎌倉を目指す旅僧が、道中にあつた家を尋ね、主人の妻に宿泊を請います。帰宅した主人の佐野源左衛門尉常世はその頼みを聞きませんが、貧苦のために宿を貸すことはできないと断ります。しかし妻の助言もあり、去つた旅僧を追いかけ、一晩家に泊めることにします。寒さが厳しくなつてきたため、常世は大切にしていた梅と桜と松の三本の鉢木を火にくべて、旅僧をもてなします。常世は親族に領地を横領されたために零落した身を述べ、それでも鎌倉で事変などあれば誰よりも先に駆けつける所存を語ります。お互いには名残を惜しみながらも旅僧は常世のものを後にします。後日、鎌倉の北条時頼は関東八州の武士に召集をかけ、常世は、みすばらしい出で立ちながら、鎌倉へと駆けつけます。時頼からの呼び出しを受けた常世が参上すると、家に泊めた旅僧が実は時頼であったことに気が付きます。今回の召集は、時頼が常世の言葉に偽りがないかを確かめるためのものであったのです。時頼は鎌倉にやつてきた常世を称賛して横領された土地の回復を約束し、三本の鉢木の木のお礼に、梅、桜、松にちなんだ三ヶ所の庄を与えます。常世は喜んで上野国へと帰って行きます。

◆令和六年七宝会年間会員について

- ◆年会費 15,000円
- 年間5公演のうち、普及公演を除く4公演の指定席代金(18,000円)を15,000円でご提供いたします。
- 発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。
- 年度途中からでも会員に申し込みたいだけです。

※防疫対策、席数制限など感染症対策をしております。

お問合せ・チケットお申し込み先

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115

会場のご案内



枚方市総合文化芸術センター 本館 関西西医大 小ホール 大阪府枚方市新町2-1-60

京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分